

第11回生涯学習センター運営協議会

〔日 時〕2013年2月24日（日）15:00～17:30

〔場 所〕生涯学習センター 視聴覚室

〔出席者〕※敬称略

委 員：石川 清（会長）、小川 久江（副会長）、岩本 陽児、押村 宙枝、川島 演、黒田 純子、
菅谷 万里子、竹葉 かほる、辰巳 厚子、富川 尚子、中村 香、並木 修、
西原 要四郎、柳沼 恵一
以上 14名

事務局：熊田センター長、小林課長補佐、外川統括係長、松田担当係長、丸山主事（記録）

〔欠席者〕佐合 昭浩

〔傍聴人〕0人

〔資 料〕・第11回生涯学習センター運営協議会レジュメ

- ・2013年度市民大学通年・前期講座一覧
- ・2013年度生涯学習センター事業年度計画
- ・生涯学習センター家庭教育支援事業について（案）
- ・2012年度生涯学習センター事業企画書兼事業評価シート資料1～19
- ・2012年度生涯学習センター事業企画書兼事業評価シート報告1～3
- ・センター長報告
- ・2012年度町田市生涯学習センターの事業報告について
- ・1周年記念イベント 町田市生涯学習センターへようこそ！
- ・イベントカレンダー 3月
- ・平成24年度東京都公民館連絡協議会委員部会報告

会 長：事業評価シートの流れについて、評価シートは1週間前に送り、それぞれの意見を運協開催
2日前までに送付していただく。それらをまとめて当日に提示する。運協の場では意見をま
とめる議論をしたいと思う。変更や追加意見があったときは、意見の集約を委員のみなさん
にふって、まとめていただく。今月分は次回分と一緒に送付していただければと思う。

<協議事項>

1. 生涯学習NAVIについて

事務局：コラムについて、来年度の執筆者を決めていただきたい。

→ 6・7月号：竹葉委員、8・9月号：中村委員、10・11月号：岩本委員、12・1月号：
押村委員、2・3月号：西原委員に決定。

事務局：市民編集委員について、来年度は公募ではなく、生涯学習センター運営協議会委員にお願い
したい。もしくはどなたかを紹介していただければと思う。

→ 個別にご連絡して調整する。

2. 2013年度市民大学事業について

事務局：今回の大きな特徴として、どのコースも前年度に比べて回数を1回減らした。講座名も少し
ずつ変えている。多摩丘陵の自然入門、郷土史、陶芸は基礎的な学習になるので、大幅な変
更はしていない。現在、3月11日の広報掲載を目指して資料づくりをしている。講座内容
は資料のとおりである。環境講座の前期は体験型になり、参加者の子どもさんやお孫さん
にも参加いただけるような工夫をしている。

(意見・質問)

委員：表の4番目の人間学・市民学について、講座名は国際学であるが、広いカテゴリーに組みかえたのは何故か。今まで人間学は、人間科学や人間関係学等がカテゴリーの中にあつた。従来の考え方からすると、国際学は国際的な何かを掴むというような感じであつたと思う。

事務局：ジャンルは市民大学HATSに書かれている学習領域を当てはめたものになる。国際学を学ぶことは人間学的要素をどう学んでいくかということ、国際的認識を高めるだけではなく、そこから自分が住んでいる国・都や町田をどう見つめ直し、自分の生活を考えていく材料にするかというところで市民学をあてた。

事務局：生涯学習センターになって、生涯学習センター事業の中で市民大学の講座をどう位置づけていくかが大事な問題になる。2013年度の講座を実施しながら、2014年度は位置づけとして方向性を決めていきたいと思っている。

会長：プログラム委員にも様々な思いがあるので、是非意見を取り入れていただきたい。

委員：健康学について、ことぶき大学も同様のテーマのコースがある。そういったところで、同じ方が両方の講座を受講できるのか、それとも、申込みが重なった場合は遠慮していただくことはされるのか。

事務局：ことぶき大学との関係では調整していない。2012年度の後期の健康学に参加された方が次回も参加する場合で、応募者が定員を超えたときは遠慮していただく。ことぶき大学は高齢者対象の講座であり、高齢になればなるほど高齢期の健康に対する関心も高い。社会全体の健康を考えたときに高齢期とは違う健康のあり方がある。どちらかだけで収まる問題ではないと考えている。

会長：「お断りする場合がある」ということは、文言として入るのか。

事務局：要項の中で記載している。

事務局：市民大学の課題として、講座の内容が固定化しているという意見がある。違うジャンルも実施していく必要があると考えている。講座はプログラム委員に作っていただいているので、早めに次年度の方針を示して考えていきたい。

3. 2013年度ことぶき大学について

事務局：前回の会議で一覧表を提示させていただいた。健康学について、市民大学は座学中心であり、ことぶき大学は体を動かすことを中心にしている。募集人数が少なく、毎年2~3倍の倍率になっていたが、今回は前期と後期とに分けて、各50人ずつ受けられるように工夫している。

(意見・質問)

委員：資料1~7に共通して、講座終了後も継続して学習できるような工夫をするという記載がある。どのような工夫をするのか。

事務局：具体的には、相談を受けたり、グループ化の支援をしたりということを考えている。ボランティアバンクの利用等を含め、ことぶき大学を受講した方が受講した知識を地域に持ち帰ってもらえるような工夫ができればと思う。

委員：修了生にハガキを出す等のフォローアップをしたり、修了生を集めてコミュニケーションをはかるために懇親会を開いたりすることはできないか。

事務局：市民大学では終了後に有志で集まる機会を設けている講座もある。可能性はあると思う。ただ、ことぶき大学の場合は人数が100人以上になるので、グループ化は難しいと思う。講座の中で話し合いの時間を入れる等の工夫をしたい。市民大学では話し合いの時間を積極的に入れている。ことぶき大学はなるべく多くの方に受講していただき、それを広めていくという考え方である。

委員：前回の一覧では「暮らしと経済」コースが未定となっていた。何が未定だったのか。

事務局：講師がはっきりと決まっていなかった。

委員：確定したのか。

事務局：朝日新聞社の講師派遣制度を使っている。各講義の内容を調整して相談しながら、ここに

る講師の方に決まった。これから講師の方と直接やりとりをしながら細かい内容を決めていく予定である。

委員：挙げられているテーマはとても大切だと思うが、変更することはできるのか。というのは、都公連の第3回研修会「地方財政の厳しい中で公民館運営」で、自治体財政の問題に理解がないというのと難しいということがあり、経済の専門家に任せるだけではなく、市民自身も自治体財政を理解する努力をすべきという話があった。そういう意味で、この講座に期待する面がある。「自治体財政と市民生活」というテーマで講座をしたらどうか。ここにあるテーマは、日本全体の経済や全体の仕組みが主であるので、もう少しスポットを当てて、自治体財政と我々の生活との関連について取り上げたらどうか。これは生涯学習センターの活動にも繋がると思うので、そういうテーマも入れていただくとありがたい。

事務局：ことぶき大学ではなく、生涯学習センター事業として、例えば時事問題などで様々な方が参加できる講座として催すのは良いと思う。そういう形で考えていきたい。

委員：ことぶき大学の中でも位置づけはできると思うので、是非両面で検討していただければと思う。

会長：ことぶき大学のコースのジャンルやテーマは変えられるのか。

事務局：再来年度に変えることは可能である。文学、歴史、美術、音楽は好評だったこともあり来年度はそのまま残した。市民要望が多いコースは残してある。新たに入れたコースもある。再来年度以降であれば、コースのジャンルについて意見を反映することはできる。

委員：是非、要約筆記をつけていただきたい。お年寄りが様々な催しに楽しそうだと思いますが参加しない理由に、耳が遠くて話が聞こえないということがあある。そういう人たちも参加して生き生きしてもらいたい。要約筆記をつけることを是非ご検討いただきたい。

事務局：資料5と8は新設したコースである。全体的に高齢者の方に興味を持っていただけるテーマを設定している。従来は絵手紙や吊し雛等、20名程度の定員で実技コースも実施していたが、非常に倍率が高かった。希望があってもほとんどの方が受けられない状況だった。今回は150名の定員の講座を増やした。

委員：地域に広げていけるようにするという意見には賛成である。高齢の方の中には、遠方に出てくるのは大変だけれど、歩いていける距離であったら参加したいと思っている方は多いと思う。ことぶき大学分校という形で、ボランティアバンクを活用して、地域で生き生きと活動できるようになれば良いと思う。町田に生き生きとした高齢者が活動する場所が開かれるととても良いと思う。

4. 2013年度生涯学習センター事業の年度計画について

事務局：来年度の予算は厳しい状況にあり、補助金制度等を活用していかなければ成り立たない。補助金制度を活用して、新たに家庭教育支援事業を新設する。事業費の3分の1は国、3分の1は都が負担していただける内容になる。国や都が進めている家庭教育事業なので、生涯学習センターとしても行う事業であると捉えている。今回の体系は、現在改定している教育プランに即して考えているものをたたき台に作成している。本来であれば、教育プランがあって、その次に生涯学習推進計画がある。生涯学習推進計画は、2013年度末までに策定を予定している。それとも整合性をとっていく必要がある。2013年度に重点的に取り組む事業として、生涯学習推進計画の2013年度中の策定、3月1日から始まるボランティアバンク制度の充実、家庭教育支援事業や生涯学習NAVIの充実が挙げられる。また、2014年度に向けて生涯学習センター専用ホームページの予算獲得に努力していく必要がある。生涯学習推進計画の策定は教育プランと平行して、整合性を取りながら進めていく。最終的には生涯学習審議会で審議していただくが、骨子案はこちらで作成する。生涯学習ボランティアバンクは、共に教え、学び合う生涯学習社会の実現のために始めた制度である。PRを積極的に行い、活性化させていきたい。学校支援センターや社会福祉協議会で行っているボランティア制度とも連動させながら、市民の方がより利用しやすい制度にして行く必要がある。家庭教育支援事業は、現在ある事業を改変して、家庭教育支援の担い手づくりに繋

げていきたい。仕組みづくりをどう進めていくか、そういう視点で2013年度は進めていきたい。

(意見・質問)

委員：教育プランの基本方針は、1から3は学校教育であり、4が生涯学習である。社会教育は社会教育法で「学校教育を除き」という、除外規定になっている。そういう意味で2つは背中合わせになる。1980年代後半以降、「生涯学習体系への移行」というキャッチコピーで、教育制度全体に関わる生涯学習という理念に変わるような動きがあった。それから20年経つが、学校教育と生涯学習はまだ背中合わせのままで、4つある柱のうち生涯学習はその1つである。不幸なことではないかと思う。学校教育は生涯学習の一部であるという考えにどうしていかないのか。学校を卒業した後も適時学んで、その成果を自分の生活の質の向上に活かし、また、地域生活に返していくスタンスの中で市民が広く学ぶ時代が変わってほしい。

委員：専用ホームページについて、完成形を作らなくてもいいと思う。できる人ができることをしてネットワークにすれば、大きなものができる。町田市の生涯学習センターとして、WEBページを作るために大きな予算をつけるのではなく、例えば、ブログを書くための講座を実施し、そこで学んだ人が実践として、「生涯学習NAVIをみんなに知らせよう」というブログを作る等、少しずつ繋いでいくと、生涯学習センターの実像がみえてくるのではないかと。市の情報が個人のブログに載ることに問題があるのかもしれないが、そういう方法をすれば時代にも合っていると思う。高齢の方にインターネットを強要するのは無理があると思う一方で、高齢の方こそ家で情報を取れるようになったほうが良いと思うので、WEBに馴染んでもらいたい。簡単に情報がとれる方法を学ぶ講座をことぶき大学で実施し、受講生が実践して自分たちでネットワークができるようになることによって、生涯学習センターの専用ホームページがなくても解決の方法があると思う。みんなが楽に情報を取ることができ、また、発信することができるので、全体として考えていけたら良いと思う。

副会長：今朝、被災地の老人たちがパソコンを使えることによって人との繋がりを持ち、自分たちも発信していくということが始まったという番組を見た。遠くまで出て行かれない高齢の方が辺鄙なところでも生き生きとしている姿が印象的だった。こういう方法もあると思った。

委員：例えば絵手紙講座であれば、作成した絵手紙を自分のページにアップしたり、相手のページにコメントしたり、お互いにネットワークができるので、いくらでも可能性はある。町田市のホームページを見ると、市民大学は講座の情報が細かく出ているが、ことぶき大学は載っていない。ことぶき大学も載せたほうが良いと思う。

事務局：教育プランは10年で計画している。今回は5年を経過したので、改訂計画になる。改訂計画は、当初は大きく変えない予定であったが学校教育部で大幅に変更したいとの話があって、枠の中で変更している。もう5年経つと新たな教育プランの初年度となるので、生涯学習の概念を含め考えていくべきだと思っている。専用ホームページについて、ここ1年、ホームページを行政で用意してどう管理していくか、古くなってしまふ情報をどう更新していくか、また、どこにリンクを貼っていくか等を研究してきた。セキュリティ面や外部の情報整理が課題になる。セキュリティをどこの会社に任せ、情報をどう見やすくしていくのか、立ち上げるには難しいところがある。

委員：生涯学習は学校教育を含めて生涯にあたる学習である、と捉える考え方には大賛成である。ホームページに限らず、例えば、受講した人がサークルやグループを作る、講座を実施する等、市民の人たちが自ら活動していくことにもっとバックアップしていくのが生涯学習センターの役割だと思う。様々な市民活動をしているグループはたくさんあり、その市民活動をする人たちをバックアップしていく学習こそ、ここでやるべきである。講座やワークショップの作り方、サークルの維持の方法、メンバーの募集方法等、そういう講座や学習をもっと積極的に実施していければ良いと思う。5年後には生涯学習体系も変わってくる。みなさんの学習をバックアップする活動こそ、生涯学習センターがやるべきことではないかと思う。

委員：この講座を受けた方がすごく楽しそうなブログを書いてくれると、それだけでも宣伝になる。セキュリティが必要な大きな建物ではなくて、小さい口コミをもっと裏から送っていければ良いと思う。

- 委員：グループ活動のためのページの作り方やブログの活用のしかた等そういう講座はあって、その先はどうかは市とは別のものなので、そのものをバックアップすれば良いと思う。
- 委員：危険を避ける講座も必要だと思う。すべてを含めて講座を組み立てていただくと安心できる。
- 委員：生涯学習が最初に取り組まなければならないのは、パソコンの扱い方だと思う。パソコンに関する講座は今までなのか。
- 事務局：公民館時代に実施していた。市民大学でもかなり前に実施していた。
- 事務局：国が政策的に行っていた時代もある。実施するとなると、それなりのOSが入っているパソコンを用意しなければいけない。
- 委員：パソコンは小型化している。受講する方に自分のパソコンを持ってきてもらうようにすればどうか。
- 委員：パソコンの使い方講座があっても良いと思う。パソコンを持っていても、うまく使えない方を対象に講座を開き、機材を持ち込みにして、テクニックやルール等を学べると良いと思う。それは一つの方法かもしれない。ただ、パソコンを持っていない方やデスクトップ型しかない方に対してはどうかという問題はある。
- 委員：川崎市の公民館では、NPO団体の方がそれなりの台数を持ってきてくれた。受講生もパソコンを持っている方は自分のパソコンを持ってきて、講座を実施した。やればできると思う。
- 委員：自主学級等の事業が家庭教育支援事業に統合されるという素案があったと思う。今回の事業体系の中に自主学級の項目がなくなっているが、今後どういう形で実施されるのか。
- 事務局：自主学級は3つのテーマで行っていたが、次年度からは家庭教育に特化する。今までの内容ではなくなってしまうが、地域で活動をしている方たちに生涯学習センターとしてどういう支援ができるかを考えていきたいと思う。少し違った形でグループ支援等も考えていきたい。具体的には決めていないが、グループ支援は必要だと思っている。
- 委員：今年度から生涯学習センターになったが、公民館という名前は残し、機能も残している。自主学級は市民がやりたいテーマを自分たちで持ってきて、公の機関の支援を受けてみんなで学べるものだった。学習する立場からすると、自分たちの思いを学びに繋げられるとても有り難い事業だと思う。また、それが公民館らしさだった。子どもにお金がかかり、自分のために使うお金があまりない年代の人にとっては、非常に有り難い支援である。今は部屋を利用するにもお金がかかる。オープンな場所でできない学習もあるので、お金はかけられないけれど学びたい市民に対しての援助は、これからも考えていただきたいと思う。

5. 2013年度家庭教育支援事業について

事務局：身近な地域で、全ての親が家庭教育に関する学習や相談ができる体制が整うよう、地域人材の養成・活用、学校等との連携による持続可能な仕組みを作り、地域全体で家庭教育を支援するという取り組みを国・都で進めている。生涯学習センターとしてもやるべきことである。概要は、現役の子育て世代に知識の提供を行うだけでなく、家庭教育支援事業の修了生や地域の子育て経験者等の支援者がそれぞれの地域で、家庭教育支援の担い手として、知識・経験を現役の子育て世代に還元できる仕組みを作るためのきっかけづくりをしていければと思う。現在、生涯学習センターでは、きしゃポップ、乳幼児から中学生を持つ保護者のための講座、自主学級の家庭教育・子育てと3つの事業を実施しているが、今までは知識の提供や学習支援までであり、担い手づくりまでには至らなかった。自分が親から受けた知識を活かすことができ、様々な人たちが関われる事業を想定している。各3事業を改変して、横の繋がりを付けていきたい。例えば、修了した人が他の事業に関わりを持つなどができればと考えている。事業で家庭教育支援の循環していけるよう、担い手を養成していくようになれば良いと考えている。都の25年度の予算について、来月の6日に説明があり、国の予算が決まるのは3月末になる。補助金は事業が終わった段階で報告書を提出し、その後に支払われることになる。

副会長：上限は決まっているのか。

事務局：上限はない。補助金の対象となるのは学習支援ではなく、担い手づくりに関するものになる。現在のきしゃポッポは、フリー参加であり、1歳未満のお子さんがある方は誰でも参加できる。保育士が読み聞かせ等をして、子育て相談も受けている。これは保育園で行っているひろば事業と同じである。担い手になれる人たちが主体となって実施するような事業に改変していきたい。また、担い手の養成講座も実施したいと考えている。川崎地域にお母さん大学という団体が和光ポブリホールで「子育てママとシニアの交換塾」という講座を実施した。そういうものが生涯学習センターでも催せたら良いと思う。シニアの方も含めて、様々な形で家庭教育基盤となる講座を考えていきたい。

6. 2013年度生涯学習センター事業の企画について

(1) 資料8「いま大学力を考える」について説明。

レジュメ6の表題を「2013年度」に訂正。資料8のタイトルを「大学をどう選ぶか—現代大学事情—」に訂正。

(質問)

委員：実施上の留意点について、中学生、高校生、一般とあるが、中学生では少し難しいのではないか。

事務局：中学生の保護者の方にも受講していただきたい。前と今では大学事情は変わっている。大学側も様々な工夫をしているといった話も聞けると思うので、中学生が聴いても分かる内容だと思う。大学生よりも大学の運営に携わっている方が興味を持つような内容である。

委員：市内の大学の事務局へ広報しても良いのではないか。

事務局：大学にも配布したいと考えている。大学のあり方も含めてお話いただける。大学生自身にも聴いていただきたいと思う。

7. 事業評価について

○ 資料9～17について説明。

(質問)

委員：いい講座を開いてもお客さんが来てくれないのではもったいない。問題が広域化して、共通の課題を抱えている自治体や住民は多くいる。例えば、隣接市と協定を結んで、お客さんの入りが少ないときにお互い協力しあう等、そういった関係づくりをすると無駄がなく、情報交換もできて良いと思う。

事務局：対象が市内在住、在学、在勤であり、市民中心に考えている。参加者が少ないところでは、市外も含めて考えていかざるを得ないと思っている。検討課題にしたい。

委員：視聴覚室の壁面を使って市民大学のPRをされている。確かにロビーには様々な方が活動していて目につきやすいが、もう少し整然とした形で、例えばボードを専用にとって掲示したらどうか。壁に直接貼っていたり、ワイヤーでボード吊り下げたりとしていて変化があつて良いのかもしれないが、もう少し壁面はきれいに使っていただきたい。

委員：応募の少ない講座は、講座名から内容がわかりにくいと感じた。他の講座名はわりと分かりやすいので、講座名を工夫したらどうか。

事務局：環境講座は毎年のように講座名を変えている。名前を変えてもなかなか参加者が増えない状況がある。

委員：町田の環境は20年もやっていたら範囲がなくなるということがかなり出てきた。この辺の見直しが必要だと思う。市域で活動していくということが大勢の人たちに行き渡っていると思う。

事務局：環境学習は常に新しいものがあり、オーソドックスな学習なので、これこそ社会の中で進めていく学習として必要なものだと思認識してプログラムを組んでいる。

委員：来年度の環境講座の後期は都内に出かけるという話が出ている。もう少し見方があるのではないかと思う。例えば、今ある小山田や鶴見川源流地域を一括に、何か大きな改革をするよ

うな提案ができるくらいの学習をしてみるのも、未来像を描くという面では良いと思う。東京だけでなく、近隣の県では実際にそういった活動をしている市域もある。

事務局：プラン作りのことをおっしゃっているのか。

委員：プログラムで広い範囲のものを付け加えるなりをされたほうが良いと思う。

会長：プログラム委員の中にはそういうことをされている方がいて、報告もしていると思う。

委員：町田市環境資源部との支援・連携のあり方が事業プロセスの広域性の評価に繋がっているという見方はあるのか。評価にどの程度影響しているのか。生涯学習として、受講率はどうかとやらなくてはいけないという立場をとるならば、効率性が低くてもやむを得ないという見方をしなければならぬと思う。その上でC評価とされた原因は何か。

事務局：あくまでも受講率が低かったことに対する評価である。行政との関連でいえば、環境行政が持っている情報を提供して、それを市民がどう考えるのか、ということ講師のアドバイスを受けながら考えていくという考え方である。

委員：修了生団体に3名の方が加盟したことはとても良かったと思う。回数が多いと足が遠のいてしまうのではないかとと思うが、講座時間が夜で学座中心だったということ、話し合いがあったということで何か工夫ができるのではないかと考えた。

会長：予算削減と絡んで、人数の少ない講座はもう少し短くするという手もあるのではないかと。

委員：まちだの福祉について、今年度は大幅に変更していて、前期に3つの公開講座、後期は研修を考えていると思うが。

事務局：研修というよりも、視覚障害者の体験や車いすの体験などそういうレベルである。

委員：施設に行き、実際に介護をするということではないのか。

事務局：1つの施設を見学する。実習となると、受け入れの体制が作れないので人数が限られてしまうので、そこまではしない。

委員：何か手助けをしたいと思っている方はたくさんいると思う。しかし、いきなり現場の厳しい状況に接してしまうと難しい部分もある。まず広い理解をするということを底辺にあった上で、もう少し踏み込んでやってみたいと思った人には実習を用意するというように、2段階構えでやると良いと思う。ボランティアをする人はどうしても限られてくると思う。その辺の見極めも必要だと思う。

委員：環境講座の中に現地で活動する時間があるが、そのときに困ることがある。それはお手洗いが無いこと。町田市にある金森ふれあい公園は東京都の緑地であったが、町田市に管理を委託され、町田の持ち物になった。講座で受講生を連れてきてもらうのは有り難いが、そこにはお手洗いが無い。そこで緑地整備活動をしているみどりのHATSという修了生団体の人たちも非常に不便している。活動する人たちの数がだんだん増えていくので、生涯学習センターから何かしらの援護はしていただけないか。ご検討いただければと思う。

○ 資料18、19について説明。

→ 資料9～19について、意見をメールで事務局あてに送る。期日は3月運協の2日前まで。

<報告事項>

1. 事業評価の最終報告

全部で3件ある。2件は市民企画講座、1件は中学生を持つ保護者のための家庭教育学級である。どれも関心の高い講座であり、いくつか課題はあったが、次年度に改善しながら実施していきたいと思う。いずれもB評価にした。中学生を持つ保護者のための家庭教育学級は家庭教育支援事業として行う。講座の内容は、テーマは違っても同様の形をとり、対象者が感心を示すようなテーマで実施していきたい。

(質問)

委員：日時に実施予定日となっているが、実施日ではないか。

事務局：訂正する。

2. センター長報告

(1) 教育委員会について

2月1日に開催された。生涯学習センターとなって1年を経過したところで、生涯学習センターではどんなことを取り組んできたのかを報告した。1つ目は生涯学習推進計画を策定である。現在、骨子案を作成しているところであり、2013年度に策定したい。生涯学習センター運営協議会に骨子案を提示し、協議していただきたいと考えている。2つ目は情報収集の提供と相談業務の拡充である。具体的には、生涯学習NAVIの発行回数を増やしたこと、情報・資料コーナーを充実させたこと、生涯学習ボランティアバンクを3月から新設することである。3つ目に既存事業の精査である。生涯学習センターは、公民館事業と市民大学事業、そして生涯学習課で担っていた学校開放等の事業を一括して担っている。また、生涯学習センターを多くの方に知ってもらうためにオープニングイベントをはじめ、若い方対象の事業を実施した。これらを踏まえ、2013年度取り組んでいきたいこととして6項目をあげた。次回の教育委員会は3月15日に開催予定である。2013年度生涯学習センター事業計画について報告する。また、市民大学事業についても併せて報告する予定である。

(2) 市議会について

一般質問のヒアリングを行った。あさみ議員から公共スペースに子どものフリースペースがあるのか、中心市街地にある生涯学習センターの中に、子どもを遊ばせるフリースペースを設けられないかという質問があった。物理的にそういうスペースを設けることは難しい。109と打合せながら対応できないか検討していきたいと思う。常任委員会について、2月25日に今年度の3月補正について質疑があった。3月15日に2013年度の当初予算について質疑をいただく。

(3) センタービルについて

ビル全体の長期修繕計画を作成している。屋上の配管にさびが見られ、その調査をしている。業者が入って調査をしないと難しい状況である。また、109と連携して「まちコレ」を開催した。今後はビル全体として連携をしていきたい。

(4) 都公連について

館長部会が2月14日に行われた。都公連は26市中12市1町が加盟している。課題は関東ブロックの研究大会について。来年度は新潟、2014年度は埼玉県、2015年度は東京が開催地となる。今の体制では、関東ブロックの研究大会を東京で行うのは難しい。三多摩の26市が集まって、生涯学習施設長の会議ができないかを東京都に働きかけている。

(5) 教育プラン・推進計画について

骨子案を作成している。生涯学習推進計画については、この生涯学習センター運営協議会でも議論していきたいと思っている。

(6) 課の仕事目標について

2012年度と2013年度を作成している。次回の会議で2012年度の課の仕事目標及び2013年度の仕事目標（予定）を提示したい。

(7) その他

2月2日にショートフィルムフェスティバルを行い、各大学生のショートフィルム作品を上映した。当日は150名が参加した。2月7日に父母会研修会を行った。青年学級は学級生もその親も高齢化しているという問題がある。テーマは「地域で安心して生活をするために」、講師は社会福祉法人の事務長をしている田部井氏。2月8日に社会教育委員と生涯学習センター職員との懇談会を行った。1年を経過して、どんな事業を実施し今後どのように展開していくのか、ざっくばらんに話をした。2月16日にまちコレを開催し、参加者は400人だった。相模女子大学、桜美林大学、町田デザイン専門学校と連携し、109の協力をいただいた。今後の予定について、本日、ひかり学級の成果発表会が行われている。3月2日に土曜学級、3月3日に公民館学級の成果発表会が行われる。いずれも13時半からセレモニーを行う。3月9、10日に子ども科学教室とプラネタリウムを実施する。子ども対象にした事業であり、毎回多くの参加者がある。3月15日に相模大野駅前にさがまちコンソーシアム事務局が委託を受けた施設“ユニコムさがみはら”がオープンし、その開所式がある。3月18日に生涯学習審議会があり、教育プランの骨子案を決める予定

である。3月24日に生涯学習センターの1周年記念イベントを開催する。生涯学習ボランティアバンクのコーナーや生涯学習センターの事業を紹介する展示コーナーを設ける。また、自主学級“まなび屋さん”の1年間の成果を発表も行われる。詳細はチラシをご覧ください。

3. 東京都公民館連絡協議会の活動について

【委員部会】

委員：2月17日に第3回研修会を行った。テーマは「厳しい財政状況の中での公民館運営」。コーディネーターは荒井文昭氏、報告者は、川村氏、倉敷氏、山家氏である。自治体の財政が厳しくなる中で、公民館の施設利用料の有料化が広がっている。都公連に加盟している12市も同様で、各自治体によってその対応は異なる。東村山市は、公運審による有料化はやむなしとの答申を経て、平成19年より有料化された。町田市は、市民が市や市議会に対して有料化反対を働きかけたが、平成23年に有料化された。国立市は昭和30年の公民館開設以来現在まで「無料原則」を堅持している。それぞれ異なった状況にあるが、それを各代表から取り組み経緯、現状、将来の展望について、それぞれ15～20分の報告がされた。その後、前半のまとめとして、荒井先生より「日本の人口が100年後には5000万人をきるといふことになることが予測されるなかで、今後考えるべき3つのポイントとして、自治体財政の現状、地方分権、公民館職員の専門性というところが意識されなければならない」という話があった。休憩の後、報告者への質問があり、様々な議論があった。最後に、研修会のまとめとして、荒井先生から「どのような社会、自治体をデザインするのかをみんなで考えるときにきている。1つはユニバーサル。全ての人にサービスを提供し、全ての人に負担してもらうという考えに立つのか、あるいは、必要な人に必要なサービスをと、ターゲットを絞ってサービスを提供するのかということをもみんなで考える必要がある。また、財政や教育行政は市長や市議会が責任を持つが、市民の意見をいかに反映させるのかという仕組みづくりが必要である。それから、財政の問題を専門家だけに任せるだけではなく、自分たちも考えて行く必要がある」と話があった。研修会後に委員部会が開かれ、今回の研修会に関連する議論があった。研修会の参加者は56名。次回はアンケート調査結果を元に話し合いをする予定である。

【役員会】

委員：4月24日（水）に来年度の総会を小金井市民交流センターで開催する予定である。

4. その他

事務局：市の広報誌「まちびと」3月号に生涯学習センターが取り上げられた。4頁のうち2頁は団体紹介であり、まちだ史考会とまちだ生涯学習コーディネーターの会の2団体が掲載される。「まちコレ」も朝日新聞に掲載された。また、生涯学習センターイベントカレンダーを毎月作成している。今後、配布させていただく。

○次回の生涯学習センター運営協議会開催日について

3月26日（火）14時から16時 生涯学習センター 学習室2

○4月から6月の生涯学習センター運営協議会開催日について

4月29日（月）、5月27日（月）、6月24日（月）いずれも10時から12時。